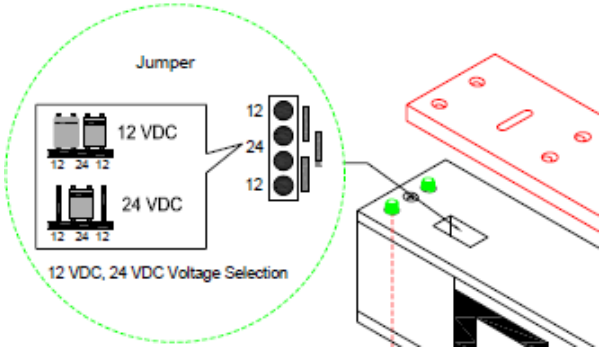
LC-MEM2400LP
侵入前警報機構付電磁式電気錠

基本性能：

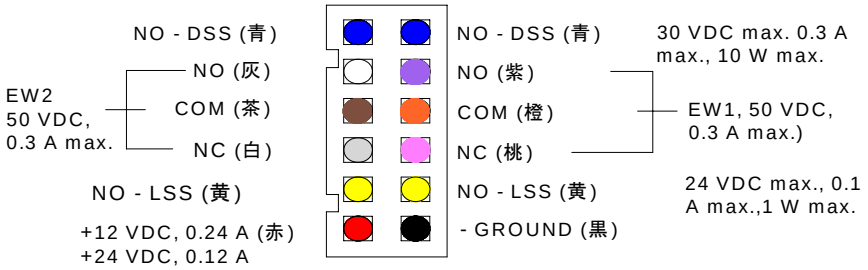
LC-MEM2400LP は侵入前警報機構付きの通電時施錠型電磁式電気錠です。
（同梱商品）1.電磁錠本体 2.吸着板 3.電磁錠本体取付用金具（電磁錠本体吊下げ金具）
4.配線用コネクタ 5.取付用ネジ類
（機能）
１．電源印加における電磁作用における施錠 ２．故意的（こじ開け行為）な解錠時の機械的施錠（EW 機構） ３．施錠状態表示ＬＥＤ内蔵（赤/緑）
※2.の機械的施錠はﾊﾞｲﾄﾛｯｸﾋﾟﾝによる小型でかつ強固な施錠を実現します。
通常時は内部小型の電磁石により施錠は保たれ、故意的な解錠操作をした場合のみﾊﾞｲﾄﾛｯｸ機構が稼動し、機械的な施錠を自動的に行います。通常ではﾊﾞｲﾄﾛｯｸ機構は使用されない為、長期間利用の対磨耗に優れています。

配線仕様及び入力電源:

電磁錠本体配線：同梱の専用コネクタワイヤーを接続してご利用下さい。
※入力電源は DC12/24V ジャンパピン 切替方式（電磁錠本体上部）



＜コネクタ ピンアサイン＞



・DSS（青/青）:閉扉信号 閉扉時メーク（ショート）/開扉時ブレーク（オープン）
・LSS（黄/黄）:施錠信号 施錠時メーク（ショート）/解錠時ブレーク（オープン）
・EW （灰/茶/白）（紫/橙/桃）：c 接点 ２回路 EW 検出時 接点切替
・ 電源（赤/黒）DC12/24 G
※ EW 出力用配線（こじ開け用接点）
電源印加施錠時において吸着板を本体より剥がす行為により接点が出力（接点切替）
扉が施錠されている状態において、無理な扉の開放を行う（こじ開け等）行為

ＥＷ（EarlyWarning）警報の内容：

ＥＷ警報はこじ開け警報を意味します。施錠時における無理な扉を開ける行為等で発報します。（接点）使用方法はブザー／パトライト／音声案内機器類と接続し、威嚇通知を行う事が可能です。こじ開け動作中のみ接点が切り替わり動作し、こじ開け動作が停止し通常施錠状態に復旧した際は、自動復旧します。

（＋）（-/G）稼動用電源の内容：

電磁錠動作用の端子です。DC12 または DC24V の電源を接続します。

入力電源の設定は電磁錠本体上部のジャンパーピンの切替により行います。

接続電源は消費電流に対し、十分な余裕を持った電源を接続して下さい。

（+）に DC12/24V（+）を接続し、（-）には DC12/24V（-）もしくは（G）を接続し、電源を印加する事により施錠動作致します。

注：電磁錠の動作は閉扉の有無に関係無く、電源の印加で電磁力が発生します。

※電源装置の接続は十分に注意をし、確実に接続を行って下さい。

内蔵ＬＥＤの内容：

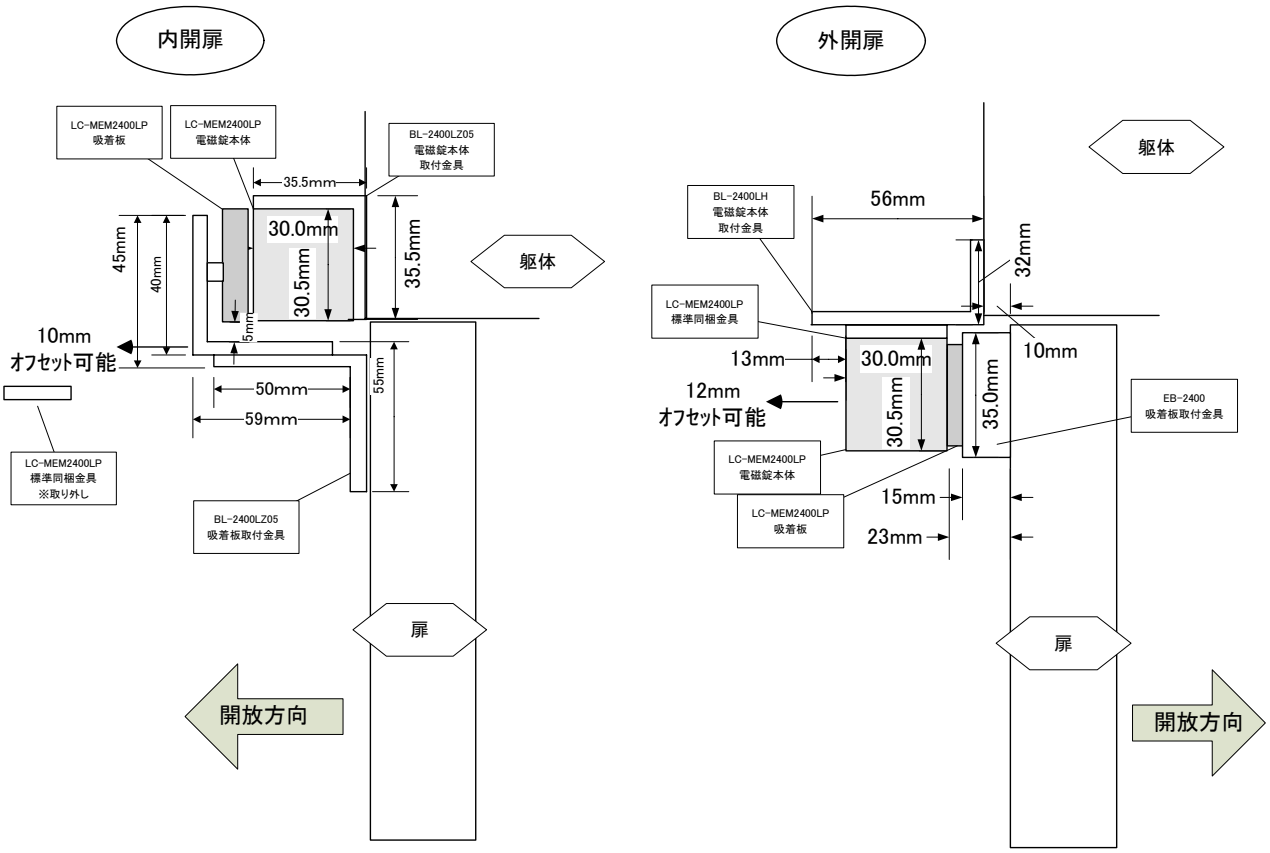
＜ＬＥＤの点灯条件＞

消 灯：　電源が印加されていない状態（解錠中）

緑点灯：　電源が印加され、解錠状態（施錠不良含む）

赤点灯：　電源が印加され、施錠状態

電磁錠吸着板・本体の取付け：　※取付参考イメージ



＜取付け方法＞

・ 取付け参考イメージを参考に、電磁錠本体及び吸着板を設置して下さい。

①電磁錠本体の電圧設定を行って下さい

②通線用配線経路を確保して下さい（枠・フレームの開口）

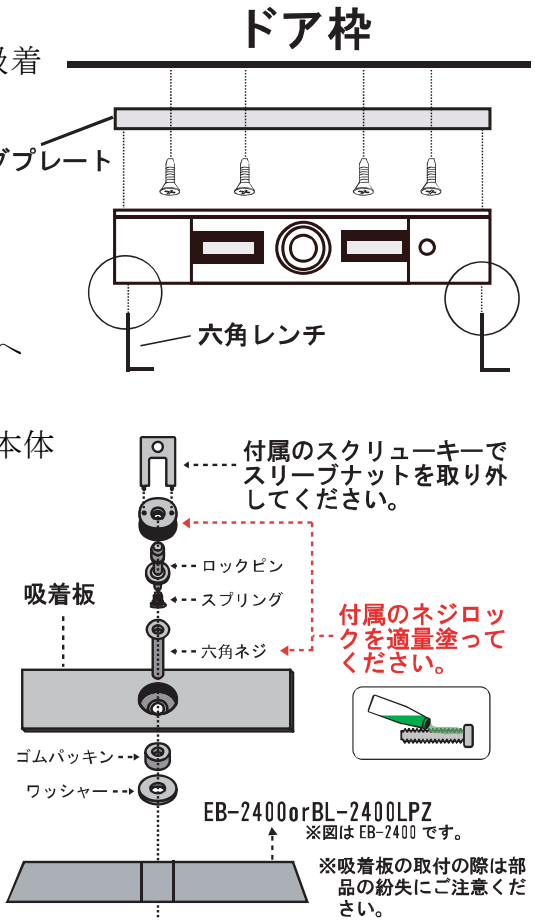
③電磁錠本体用取付金具を扉枠またはフレームへ確実に取付けて下さい

④取付け金具の固定が完了しましたら、電磁錠本体を取付金具へ固定して下さい（右上図参照）

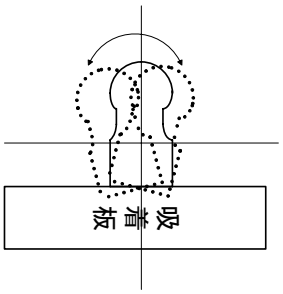
⑤扉へ吸着板取金具を確実に取付けて下さい

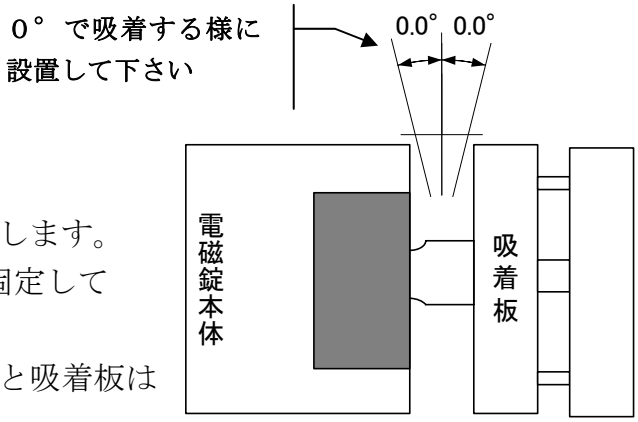
⑥吸着板バイトロックピン部を吸着板より外し吸着板を取付金具へ固定して下さい

⑦バイトロックピンを吸着板へ取付けて下さい



※電磁錠本体と吸着板施錠位置関係





吸着板先端のﾊﾞｲﾄﾛｯｸは上図の様に稼動します。取付の際は必ず中心位置を保つ位置で固定して下さい。

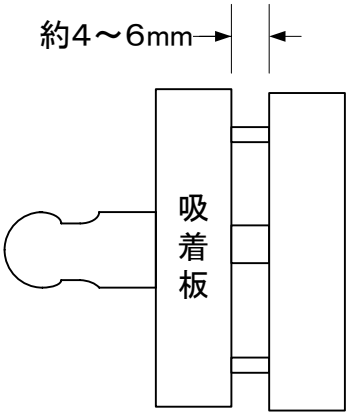
また、設置に際し右図の様に電磁錠本体と吸着板は必ず全面密着する様に設置して下さい。

※絶対に LC-MEM2400LP 電磁錠本体を戸当りにしないで下さい

電磁錠本体内には DSS/LSS（閉扉/施錠）信号センサーが内蔵されています

戸当り状態の場合は破損します

※吸着板～取付金具の位置関係



吸着板を取付ける際は取付金具との間隔を右図の様にワッシャー＋ゴムワッシャーで間隔を保ち、指で吸着板の端を強く押した際、吸着板が動く様に設置して下さい。これは扉のズレ等を吸収し、電磁錠吸着面に吸着板が密密させる為に必要な隙間です。

※設置後の事前動作確認について

○設置完了後は電源の印加無しの状態で電磁錠のﾊﾞｲﾄﾛｯｸ部の確認を行って下さい。
確認方法は手動で扉を開扉→閉扉を行い、吸着板バイロトックピンが電磁錠本体のバイトロック施錠格納部位に挿入される際、擦れ等が無くスムーズに入る事を確認して下さい。

○電磁錠本体吸着面と吸着板吸着面を合わせた状態で、隙間が無く上記図の様に０°で施錠出来る事を確認して下さい。隙間等が発生している場合は、設置調整を再度行って下さい。

○電磁錠設置が異常無く完了しましたら、制御盤等を稼動させ正常な施錠を確認して下さい。
※この際も電磁錠のバイトロックピンが円滑に電磁錠本体の穴へ挿入され、異音が発生しない事を確認して下さい。バイトロックピンが擦れ異音が発生する場合は、再度電磁錠の取付調整を行って下さい。

※設置後の施錠確認

○電磁錠に電源が印加された状態（通電状態）で、閉状態の扉を手動でこじ開け操作を行い、施錠が保持されている事を確認して下さい。

※この施錠確認作業で、扉が２～３mm 程度の稼動は致しますが、正常です。
LC-MEM2400LP は、施錠状態から２～３mm 開放方向へ稼動した状態が、最大の施錠状態を発生させます。
また、この MEM 機構の EM 警報用接点が稼動し、EW 接点（COM/N.O/N.C）が反転動作します。EW 警報をご利用の際は接点が反転する事も合わせてご確認下さい。

※施錠不良が発生する原因

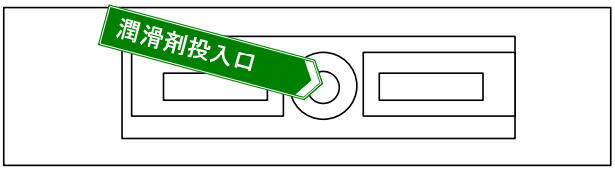
電磁錠本体と吸着板が正常設置環境下で無い場合、こじ開け操作で解除されてしまいます。その際は、電磁錠の設置状態を再度確認して下さい。

※解除不能になる原因

※バイトロックが正常に挿入されない場合（擦れながら入る場合等）、電源印加による運用時に施錠から解除不能になる可能性が発生します。
吸着板のバイトロックユニットは指で軽く動く状態が正常です。固着等で動かない場合は異常が想定されます。
バイトロックピンの異常（ピンが指先で動作し辛い状態）の場合は、ゴミ等がユニット内部に入っている可能性があります。吸着板ユニットの交換が必要になります。

※定期的なお手入れ

○施錠解錠動作を長期間安定に実現する為、定期的期的なバイトロックピンの動作を確認する必要があります。（６ヶ月毎）



※ 右図の潤滑剤投入口にテフロン系潤滑剤を電磁錠本体のバイトロックユニット挿入口へ少量噴霧して、円滑な動作を確保して下さい。

※ご推奨ケミカル品

□左記商品は鍵のメンテナンスで多用されているケミカル品です。

○ＪＬブロアー（エアーダスター）
○ＪＬクリーナー（脱脂洗浄剤）
○ＪＬスムーサー（フッソ系潤滑剤）

保守:

不具合内容別保守：

＜施錠動作不良関連＞

１．施錠不良

1-1. 電源が LC-MEM2400LP の電源ラインに印加されている事をご確認下さい。
LC-MEM2400LP は閉扉に関係無く、電源の印加で磁力を発生させます。

1-2. 一般的なモーター錠制御盤は閉扉信号が入力されない場合、施錠用電源が出力されません。その際は LC-MEM2400LP の DSS（閉扉信号）信号が制御盤へ達しているか、否かテスター等で確認して下さい。

1-3. LC-MEM2400LP へ正常に電源が印加されているか否かは電磁錠本体背面 LED でも確認する事が可能です。
消 灯： 施錠用電源が印加されていない状態（解錠中）
緑点灯： 施錠用電源が印加され、解錠状態（施錠不良含む）
赤点灯： 施錠用電源が印加され、施錠状態

1-4. 扉は施錠されるが、施錠信号異常（背面 LED 緑点灯）。
吸着板の吸着位置のズレによる LSS 信号（施錠信号）が出力されない。
※制御盤の種類によっては施錠不良状態が継続すると、解錠操作不能になる。
対処：吸着板を電磁錠本体に対し正しく設置して下さい。

２.異音の発生

2-1.バイトロックピンが閉開扉時に異音を発する。

バイトロックピンが自由に稼動せず、閉開扉時に音が出る場合があります。

指でバイトロックピンが円滑に稼動する事をご確認下さい。

定期的なお手入れで記載の、ケミカル等噴霧によるメンテナンスを行って下さい。

2-2.閉扉時、金属音の発生。(電磁錠本体と吸着板が当る音)

LC-MEM2400LP が戸当り状態になっています。

絶対に戸当り状態で設置しないで下さい。電磁錠本体が破損または、固定ネジが緩み思わぬ事故を誘発します。

＜解錠動作不良＞

１．解錠不能

1-1.電源の印加を停止（電源の OFF）状態でも解錠されない

バイトロックが噛み込んでいる可能性があります

扉を揺らし（上下左右）バイトロックの噛み込みを解除して下さい

扉の開放後は、バイトロックの点検/メンテナンスを行って下さい

1-2.制御盤から解錠操作を行っても、解錠出来ない

制御盤において施錠不良の状態が保持されています

制御装置の電源を OFF にして一旦電磁錠を解錠し、LSS 信号（施錠信号）を確認して下さい

LSS 信号が正常に出力されない場合は、施錠位置（吸着板のズレ）不良が想定されます　正常な位置へ修正して下さい

以上